

for a bright tomorrow

No. 122 2021年7月1日発行

びわこ学園後援会事務局

滋賀県野洲市北桜978-2 〒520-2321 びわこ学園医療福祉センター野洲内

TEL(077)587-1144 FAX(077)587-4211 ホームページ: http://www.biwakogakuen.or.jp

発行責任者 島田

編集責任者 田中

## 知的障害児者生活支援センター ひまわりはうす

暎子

こんにちは、ひまわりはうすです。自立訓練・ 生活介護・日中一時・入浴・セーフティーネット 事業など、多様な事業をやまびこ総合支援セン ターで展開しています。



展示の様子

今回は、去る3月3日~31日まで、滋賀銀行膳 所駅前支店の1Fロビー展示スペースをお借りし て、ひまわりはうす生活介護と日中一時のアー トサポートが、地域発信へ向けて初コラボした 「いっしょにいい時間作品展」のことをお伝えし

京風ひな壇ろうそく

10数年前、 ひまわりはう すがデイサー ビス事業をし ていた頃、日 本舞踊や太鼓 の活動を当時 ご近所だっ た旧平野支所

ます。

で発表する場がありました。緊張しながらも、そ こに向けて頑張る利用者さんの姿があったことを 思い出します。今、コロナ禍でおまつりはうすな どの交流や発表の場も中止となりましたが、作品 展という形で 発信すること が出来て、感 謝!です。

展示内容は、 毎月1回行わ れる「自由な 自己表現の



「yutahayaキャンドル」絶賛販売中!!

場」としてのアートサポートからは、各自の得意 とするイラストや書、季節のアートを。生活介護 からは、日々の活動で作成したものや今、力を入 れている作業的活動のろうそく作りで制作したも のに季節感を出し、ひな壇に見立てたものを出品 しました。

☆作品展を見に来て下さった方々の声を紹介します☆

作品に取り組む気合い=熱量が感じられ、 大変面白かったです。

おひなさまのロウソクづくり、

色合いもすてき。イラストの色も大好きです。 ロウソク、どれをとっても心がなごみました。 ありがとう。今日、銀行ですてきな作品と出会 えてうれしかった。自己表現の場があるってい

(ご家族から) 頑張って素敵な作品を作ってくれて ありがとう。二人で見に来ました。

その他にもたくさんのうれしい感想を寄せてい ただきました。

そして、この秋11月に第2弾として、また、滋 賀銀行膳所駅前支店で作品展を開催できることに なりました。「vutahavaキャンドル」もぜひ実物 をみなさんにご覧いただき、ご意見をいただけれ ばやる気アップまちがいなしです!!よろしけれ ば「いっしょにいい時間」を過ごしませんか?!

## 令和3年度 びわこ学園後援会書面総会報告

びわこ学園後援会事務局

昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、役員の皆様から書面により表決をいただきました。 規約に定める表決の規定数を満たしており、承認いただきましたので、ここでご報告させていただきます。

## 【書面審議にて承認いただいた議案】

- ◇第1号議案 改選後のびわこ学園後援会役員について
- ◇第2号議案 令和2年度事業報告および決算報告について
- ◇第3号議案 令和3年度事業計画(案)および予算(案)について

### 【議案概要】

◆第1号議案:びわこ学園後援会の新規役員について これまでご支援いただいた皆様本当にありがとうご ざいました。新たに就任いただいた皆様どうぞよろし くお願いいたします。

## ◆第**2号議案**: 「令和2年度事業報告」

ここ数年皆様にご参加やご支援をいただきながら、 活動が充実し、障害やびわこ学園の事業に対する理解 の広がりについて、実感として掴みかけてきました。

しかし、一昨年からの新型コロナウイルス感染症 (以下、新型コロナ)の感染拡大により、長期にわたっ て不要不急な外出は自粛せざるを得ず、昨年に続き令 和2年度においても当後援会として活動ができない状 況が続きました。

そのような中、これまで継続してきた活動を今後どのように継続、発展させていくのかについて検討してきましたが、まずは活動を広げていくことよりも「今できることを継続していくこと」に取り組んできました。

## 1 後援会新事業の推進

役員や会員の皆様と直接的な交流ができない状況が 続きました。

## 2 『びわこ学園後援会ニュース』の発行

新型コロナ禍が続き、皆様にびわこ学園の各施設へ 訪れていただくことができない状況が続いたからこ そ、年3回ニュースを発行することが貴重な機会であ ることを改めて感じた1年でした。 皆様に直接的な協力いただくことができない状況であっても、利用者さんがどのように過ごされているかを伝えることができたり、OB職員等から近況やびわこ学園で過ごした間どのように感じておられたかなど、紙面を通じて多くの皆様と共有することができたと振り返っています。

また、新施設がスタートしたことに対する備品購入 助成報告をはじめ、助成したイベントや研修会の報告 を掲載することで、会員の皆様からいただいたお気持 ちをどのようにいかしているかをお伝えすることがで きました。

さらに、会員募集のお知らせと振込用紙を引き続き 毎回掲載し、広報と合わせて会員の募集にも活用でき ました。

ニュースの発行後、会費やご寄付を振り込んでいただくことが続き、活動を制限せざるを得ない状況であっても皆様から応援していただいているという温かいお気持ちを感じることができる機会ともなりました。

## 3 各施設で開催されるイベントへの参加・助成

後援会ニュースにも掲載しましたが、新型コロナ禍であっても感染拡大防止対策を実施しながら職員の皆様の創意工夫により、医療福祉センター草津秋祭り(No.121掲載)、センター野洲夏祭り(No.120掲載)が開催されたことに対して助成しました。

### 【医療福祉センター野洲事務局から】(要約)

今年は新型コロナウイルス感染症対策で役員さんの お手伝いはいただけませんでしたが、棟ごとの開催と いうことで、各棟の特色あふれる出し物がありました。 利用者さんのたくさんの笑顔に出会うことが出来ました。 会えずとも陰から支えてくださっている皆様に感謝しております。

## 【医療福祉センター草津事務局から】(要約)

感染対策から、利用者、ご家族と限られたボランティアさんのみの参加制限となったことや、各ブースも中止となりましたが、昼食を屋台メニューにし、ステージイベントの観覧を入れ替え制としたことで、利用者一人ひとりが、じっくりと祭りを楽しめた時間となり、ひと味違う秋祭りの形がありました。

秋祭りを通し、半年間会えなかったご家族やボランティアの方々との触れ合いの中で、一人ひとりが感じるものは、後援会をはじめ大勢の方に支えていただいているお気持への感謝です。

## 4 施設の「環境充実」への助成

花壇整備だけでなく、各施設で利用者の生活や活動が充実するような物品等を購入することに対して助成し、利用者が集うお楽しみ会や活動備品にも活用いただくことができました。

## 5 びわこ学園主催講座等への事業支援、運営費の 助成

医療福祉センター野洲が実施する「公開講座」への 事業支援として、開催費を助成(各2万円助成)しま した。

びわこ学園が主催する「びわこ学園実践研究発表会」や医療福祉センター草津の公開講座、その他の講座は開催されず申請はありませんでした。

### 6 会員の勧誘

後援会ニュースだけでなく、SNSを活用して施設の近況をご紹介してきました。前述しましたが、ニュースの発行後毎に会費の入金をいただくこともあり、直接的な勧誘はできませんでしたが、継続して取り組むことができました。

## ◆第3号議案:「令和3年度事業計画」

新型コロナの感染拡大により、以前のように皆様にお集まりいただくような活動が開催できない状況が今年度も続きますが、昨年度に続き「今できることを継続していくこと」に取り組んでいきます。

その中で、このような状況であるからこそ「いのち」の尊さや大切さについて、どのように伝えていくのか、 検討していきます。

また、後援会ニュースを紙面で配布することだけでなく、ホームページへ掲載して発信することは勿論、SNSを通じたびわこ学園の近況報告や福祉制度等を紹介しながら、びわこ学園後援会の活動主旨にあった情報の発信や情報提供に一層力を入れていきます。

## 1 『びわこ学園後援会ニュース』の発行

今年度も継続して後援会の助成がどのように活用されているかに関する報告や利用者さんの過ごし、福祉の制度動向等についての記事など掲載し、より広く理解を得られるような紙面づくりを行いながら年3回発行していきます。

## 2 各施設で開催されるイベントへの参加・助成

医療福祉センター草津秋祭り、センター野洲夏祭り、 知的障害児者地域生活支援センターおまつりはうすが 開催されれば助成し、開催されない場合には今後展開 する新たな活動や助成に活用していきます。

## 3 施設の「環境充実」への助成

利用者の生活や活動が充実するような物品等を購入する場合に助成していきます。

# 4 びわこ学園主催講座等への事業支援、運営費の助成

イベント同様開催が難しいことを踏まえ、オンライン開催を含め、開催された場合には助成していきます。

#### 5 会員の勧誘

後援会ニュースの掲載内容を充実させながら、インターネットおよびSNSなど多様な広報手段を活用しながら、後援会の活動主旨や事業内容を発信していく中で、会員拡大できるよう活動していきます。

## 令和2年度びわこ学園後援会一般会計収支決算

(収入)

(単位:円)

( ) ( )					(— i = 1 3)
科		予算額(A)	決算額(B)	増減(B)-(A)	備考
会費収入		1,290,000	1,265,000	△ 25,000	当年度分943,000円(270人、309口) 受け分322,000円(90人、97口)(前年比)+23,000円(前受分5名増加等)
寄付金		200,000	1,075,000	875,000	(前年比) +674,000円 (42人⇒57人)
諸収入		50	45	△ 5	利子
繰 越 金		4,779,899	4,779,899	0	
収入	合 計	6,269,949	7,119,944	849,995	

(支 出)	(単)								
禾	斗 目	予算額(A)	決算額(B)	増減(B)-(A)	備考				
事務費		265,000	148,939	△ 116,061					
	会議費	15,000	0	△ 15,000	総会(書面にて実施のため)				
	印刷製本費		75,900	△ 24,100	封筒代				
	通信費	20,000	6,370	△ 13,630	切手代他				
	人件費	80,000	17,060	△ 62,940					
	雑費	50,000	49,609	△ 391	振込手数料、残高証明、テープ等				
広報事業費		1,024,000	722,547	△ 301,453					
啓発	事業費	520,000	497,493	△ 22,507					
	印刷製本費	320,000	310,365	△ 9,635	後援会ニュース(3回分)				
	通信費	190,000	186,628	△ 3,372	ニュース送料(1回分)				
	啓発資料印刷費	0	0	0					
	施設祭出店	0	0	0					
	記録映画DVD購入補助金	10,000	500	△ 9,500	1枚分				
事業を	支援費	504,000	225,054	△ 278,946					
	実践研究発表会補助	100,000	0	△ 100,000					
	(新)地域合同実践報告会補助	30,000	0	△ 30,000					
	施設環境充実補助	164,000	145,054	△ 18,946	草津、野洲、びわこ学園障害者支援センター6事業所				
	公開講座補助	40,000	20,000	△ 20,000	野洲				
	講座補助	60,000	0	△ 60,000					
	施設イベント補助	110,000	60,000	△ 50,000	草津秋祭り 野洲学園祭各30,000円(野洲夏祭り 知的障害児者地域生活支援センターおまつりはうすは未実施)				
新施記	設備品購入補助	0	0	0					
後援会新事業	Ě	50,000	0	△ 50,000	上映会会場費(草津)、各委員会活動費等				
繰 越 🗈		0	6,248,458	6,248,458					
予 備 費		4,930,949	0	△ 4,930,949					
3	支 出 合 計	6,269,949	7,119,944	849,995					

当期収支(令和2年度) 収入 ¥2,340,045 支出 ¥871,486 収支差額 ¥1,468,559

## 令和3年度びわこ学園後援会収支予算

(収入)

支 出 合 計

(単位:円)

( ) / (									(11213)
	科		目	前年度決算額(A)	予算額(B)	増減(B)-(A)	備	考	
会費収	入			1,265,000	1,290,000	25,000	3,000円×430口(前受分含む)		
寄付	金			1,075,000	200,000	△ 875,000			
諸収	入			45	50	5	利子等		
繰 越	金			4,779,899	6,248,458	1,468,559			
	収入	、合	計	7,119,944	7,738,508	618,564			

	-10 // 1	1 11	7,110,011	7,700,000	010,001			
(支 出) (単位:円)								
科目			前年度決算額(B)	予算額(B)	増減(B)-(A)	備考		
事 務 費			148,939	215,000	66,061			
会議費		0	10,000	10,000	総会、茶話会、役員会他、茶菓子代			
	印刷製本費		75,900	80,000	4,100	封筒代		
	通信費		6,370	15,000	8,630	切手代等		
	人件費		17,060	60,000	42,940			
	雑費		49,609	50,000	391	振込手数料、残高証明、のり、セロテープ等、宛名ラベル貼付作業		
広報事	業費		722,547	1,260,000	537,453			
	啓発事業費		497,493	740,000	242,507			
	印刷製本	費	310,365	300,000	△10,365	後援会ニュース (3回分) @92,400円 (税込) *3回		
	通信費		186,628	390,000	203,372	送料等 今年度は2回後援会 1回学園負担ゆうメール@97*約2,000部		
	啓発資料印刷費 施設祭出店		0	0	0	学園PR資料		
			0	40,000	40,000	野洲夏祭り・草津秋祭り各20,000円で出店(開催未定)		
Ι.	記録映画DVD購入補助金		500	10,000	9,500	夜明け前500*10枚 わたしの季節500*10枚		
	事業支援費		225,054	520,000	294,946			
	実践研究発表会補助 (新)地域合同実践報告会補助		0	100,000	100,000	開催未定		
			0	30,000	30,000	開催未定		
	施設環境充実補助		145,054	180,000	34,946	草津 野洲 各50,000円、びわこ学園障害者支援センター 【えがお・さんさん・たいよう・かなえ・ビアーズ・ともる・ えまい・ちょこらんど 各8,000円】知り障害児者地域生活支援センター【さくらはうす・ひまわりはうす 各8,000円】		
	公開講座補助		20,000	40,000	20,000	開催未定		
	講座補助		0	60,000	60,000	開催未定(2講座⇒3講座)		
	施設イベン	ント補助	60,000	110,000	50,000	野洲夏祭り・草津秋祭り・野洲学園祭各30,000円(開催未定) 知的障害児者地域生活支援センターおまつりはうす20,000円(開催未定)		
	新施設備品購入補助		0	0	0			
後援会新事業			0	0	0	今後活動時に予算立て		
繰 越 金			0	6,263,508		当期収支(令和3年度)		
予(	蕭 費		6,248,458	0		収入 1,490,050		

当期収支(令和3年度) 収入 1,490,050 支出 1,475,000 収支差額 15,050

7,119,944 7,738,508

だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され「ありがとう」と看取られる地域社会を目指して、つながりから切れている人が縁を紡ぎなおすことへの支援や「制度の限界」とあきらめてきた福祉課題に対応する実践を現場からつくっていこう。この思いに共感し、汗をかこうと会員になってくださった法人、施設の方々とともに滋賀の縁創造実践センターが活動を開始したのは平成26年9月でした。

「高齢者施設、デイサービスという身近な地域の事業所が協力してくれると、心身に重度の障害がある人のお風呂の課題に対して、安心できる福祉施設でゆっくりお湯につかれる

本人さんのほほえみと親御さんのVoice (言葉や声)のもつ力の賜物。強く相手にぶつける Voiceではなく、共感と連帯をつくるやさしく しなやかなVoiceが、当事者の方たちから、そ して当事者の代弁者である支援者の方たちからいくつもいくつも発せられたのです。

草津のピアーズでの出会い、日野や東近江での出会い。親御さんは、ご自身の大変さではなく本人さんがどれだけお風呂が好きかということやお風呂あがりのご機嫌さんの様子をほんとうに楽しそうに話してくださいました。モデル事業は不安もあるけれど、子どもの友達や後に続く人のためにと協力くださる

ことになり、いつもは高齢者の入浴支援をされているケアワーカーや看護師との入浴が始まったのです。お風呂上がりの満足感たっぷりの笑顔(親御さん曰く"ドヤ顔")は、私も含め支援者の元気のツボを思いっきり刺激してくれました。

滋賀でも新型コロナウイルス感染症患者の発生が止まらないなか、心身に重度の障害があるご本人も家族も支援事業所も、徹底した対策と工夫で日々の安心を守っておられます。しかし、コロナ禍でのサービスの縮小、感染や病気に対する偏見や差別があることも事実です。ご本人や親御さんは今のほんとうの気

持れ援てほにだみたくと人福をだは本とれうVoiceをしてか者の気でほ持見いい滋人でか者の気でほ持見いい滋人でかると今持いほつえるる賀とら支しのちるえ方にこーのし

て、私も当事者の 方たちの思いを聴き、世の中に伝えられる代 弁者になりたいと、ひたすらに思っています。

# 慧眼温顔

## 「ひたすらなるつながり」 のはじまりの出会い



社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 たにぐち いくみ 谷口 郁美



## びわこ学園〇日通信

# びわこ学園の思い出 30年目の懺悔

~第一びわこ学園新築移転30年によせて~

注:本人の回想ですので多少事実と違っている点もあります。呼称なども当時のままです。

30年前という時間は、私のお気に入りの映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」の設定にもあるように、人々にとって、古すぎず、容易に懐かしく思い出せ、多くの人と共感できる時間であるようです。

今からちょうど30年前、びわこ学園が、大津の長等山から、現在の地、草津に移転した年に、私は、第一びわこ学園薬剤課(薬局)に就職しました。

新築移転ということで、施設の多くの部門が拡充され、それに伴い人員も大幅に増員されました。その流れにうまいタイミングで乗っかる形でお世話になったのです。

当初の予定では、4月から新施設で仕事をするはずでしたが、諸都合で移転が伸び6月までは旧施設で働くことになりました。

このことは残念なことのようにも思えましたが、のちに、しばらく職員の皆さんが口にする「長等(旧施設)は良かった」との、ため息のような言葉に共感できる下地となりました。

さて、良いのかどうかは別にして、長等山の旧びわこ学園は、飛騨の山育ちである私ですら圧倒されるような森の中にある、印象深い建物でありました。外来棟、南病棟、北病棟が斜面に多層的に建っており、それぞれは1~2階建てですが、実質4~5階建てくらいの高低差がありました。

私が勤める薬剤課(薬局)は、最下層(?)の外来 棟にありました。びわこ学園に続く道を上りきった正 面にその玄関が見えてきます。昭和の40年代ぐらいの 建物でしょうか、扉を開けて入ると、受付があり小さ な窓からかわいらしいおばさん(失礼!)が顔をのぞ かせます。左手に三畳敷きくらいの待合スペースがあ り、正面に、やはり小窓を構えた薬局がありました。

子どものころ通った耳鼻科の雰囲気そのままで、懐かしい感じがすると同時に、確かにこれは建て替えが必要だな、と思わせるに十分な、前時代的なものでした。

さらに入ると、診察室、休憩室があり、廊下の奥に は薬剤倉庫、検査室、リハビリ室と続くのですが、古 さと薄暗さで、昔の映画に出てくる謎の研究所のよう な雰囲気です。突き当りの階段を上がるとそこは南病 棟へと続いているのでした。

「旧びわこ」の建物は、全体に、迷路のように複雑につながっていて、多くのものがコンパクトにまとまっているという印象でした。対して、のちに移転する「新びわこ」は、これらを全部1枚に引き伸ばした、そんな印象です。

就職してすぐの日曜日に南病棟のお花見会がありました。外来職員は自由参加でしたが、職場に早くなじもうと思い参加しました。

南病棟と北病棟にはさまれた中庭には大きな桜の木 がありました。お互いの病棟からよく見え共有できる この場所は、園生さんと職員みんなのお気に入りの場所であるようでした。

西野

ひろゆき

裕之



その桜の木の下で、園生さんと職員が集まり、ギターを弾いてオリジナル風な歌をみんなで歌ったり、笑ったり、楽しい時間を過ごしました。南病棟には、たまたま私と同じ1966(昭和41)年11月16日生まれのS井稔さんという方がみえましたので、自己紹介がてら本人さんを前にお話ししたのですが、私がそもそも老け顔だったからか、喜ばれるどころか「同い年なんて、心外だ!」という顔をされたことを覚えています。

会の準備や進行もスムースで、慣れた感じを受けましたので、卒業したばかりで学生気分の抜けない私は、「日曜日ごとにこんなイベントを開いているんかなあ、これはまた夢のような楽しい職場にきたものだなあ」と、直接介護にあたらない気楽さもあって、勝手に喜んでいました。

それから数日後、そんな甘い考えを吹き飛ばすような緊急事態が起きました。ある園生さんの容態がよくないようです。新任のY医師が懸命に救命処置を行う中、必要な薬がありません。近くの大津日赤までもらいに行くよう命ぜられ、私は原付を用意していましたが、本人を救急車で搬送することになり、不安な気持ちで見送りました。が、甲斐なく、その園生さんは病院で息を引き取られました。

(あの時薬があったら…) 結果が変わっていたかはわかりませんが、自分の仕事が、誰かの命に直結しているという、苦い現実を思い知らされた、今でも忘れられない出来事です。

移転の1か月前くらいになると、定時に仕事が終わった後、事務職員を中心に、外来職員の有志で引っ越しのお手伝いをするようになりました。

倉庫の棚、資料(映画のフィルムもありました)、 備品、その他新施設でも使えそうなものを、すべて自 分たちで運びました。大変な作業でしたが、その作業 を通して、びわこ学園の歴史や成り立ち、携わってき た方々の想いというものに触れられた、そんな気がし ました。

薬学部出身の私は、それまで、何も知らなかったのです。こここそが、「夜明け前の子どもたち」の舞台であり、障がい者福祉の教科書にも載る先駆的施設であり、「この子らを世の光に」を体現しようとしている現場であることを。

「旧びわこ」には2か月ほどしかいなかった私です

が、何となく愛着が湧き、移転後もちょくちょく建物 の様子を見に行ったりしていました。

そして、いよいよ建物を壊すとなったころ、何か、記念になるようなものが欲しいと思いました。 1番、目をひいたのが、正面玄関の壁に埋め込んである「び」「わ」「こ」「学」「園」と書かれた陶板です。しかし、これは、壊さずにうまく外せる感じがせず、ひょっとして上の人が、今後、正式に取り外して保存する予定であったら、大ごとになるなあと思い、やめました。後日、聞いたところでは、あの陶板は園にゆかりのある人の作であり、価値のあるものであったようなので、やはり自分には分不相応なものであったなあと納得しました。

結局その時、持ち帰ったのは倉庫にあった「火気厳禁」「危険物管理者表示」の2枚のプレートです。これがびわこ学園にあったかどうかもわからない、ただ、職員の0塚氏の名前があるから、ああそうかと思うよ

うな代物です。

私が記念にもらった ものの一つに「北寮」 の黒電話があります。 大学が大津市の隣の京 都市山科区にありまし たので、初めのころは



大学時代の下宿から原付で通ってましたが、そのうちに下宿も引き払わなければならなくなり、「北寮」に少しの間入りました。ここもまた、歴史的建造物で、空き部屋の布団の中で、猫が子どもを産んでいたなど、逸話には事欠かないところでした。

記念といえば、移転前日の夜の「新びわこ」の宿直を仰せつかった時のことです。翌日から使用開始ということで、準備は万端整っていますが、まだ、誰もいません。「何かあってはいけない」ということで、一人警備につくことになったのです。

新施設には、外来棟にシンボル的な赤いとんがり屋根のタワーがあります。吹き抜けで、中には何もないのですが、照明を点灯すると、夜は一段ときれいです。

「ちょっと点けてみよう」さみしさも手伝って、いたずら心でやってしまいました。外へ出て、さらに、

施設の向かいに建っている職員寮に上がって眺めました。山の中で真っ暗な中に浮かび上がって、確かにきれいでしたが、ちょっとさびしい感じでした。「全館点灯したら、もっときれいかも」他人が見てないところでは大胆なことをする人間の典型みたいなもので、もう止まりません。見回りも兼ねて(?)施設内のすべての照明を点けて回りました。広い施設ですので30~40分はかかったかと思います。再び、職員寮に上がり眺めました。真夜中でしたが、あたり一帯が煌々と照らし出され、「新びわこ」全体が浮かび上がりました。

「何かあったらいけない」の「何か」を今、起こしてるような後ろめたさも若干感じつつ、後にも先にもこんなことはないでしょうし、この景色を見られるのは自分一人だけだなあ、と悦に入っていました。

現代でしたら、スマホで写真や動画をとるところでしょうが、当時は携帯電話すらまだ普及していませんし、思いつきでやったことなので、カメラも用意していません。私の頭の中にしか残っていない光景です。逆に言えば、証拠も残っていませんので、私の妄想かもしれない(?!)です。

移転後しばらくの間、財政難で苦労された経営陣の 方々には、口が裂けても言えない、贅沢 (無駄遣い?) な一夜の思い出です。

その翌日、無事に園生さんの移動も完了し、とにもかくにも、こうして、草津の新びわこ学園での毎日が始まりました。

その後もいろいろなことがありました。寮での新生活、親睦会活動、園生さんとの交流、職員さんの結婚祝賀会、などなど本当に充実した毎日でした。

そして今、地元、飛騨高山に帰り、精神科クリニックの前にある薬局で、薬剤師として働いています。患者さんには、いろいろな方がみえますが、いろいろあって、それで、すべてみんないいんだと思えるのは、びわこ学園での体験があったからだと思います。

こうして、当時を振り返りますと、若気の至りで、 皆様にご迷惑やらお詫びしなければならないようなこ とが、数々ありました。お許しいただければ幸いです。 お付き合いいただきありがとうございました。



## 振替払込請求書兼受領証



## みなさま、いつもありがとうございます



### ★ 2020年11月1日~2021年3月31日受付分

(敬称略、順不同)

#### 【2020年度分会費】

鳴戸百合恵 北川 將亦富士夫 小菅 康子 髙橋 博美 藤田 智 飯塚 勝邦 飯塚 昭子 上田加代子 池田 花子 大谷 則二 崎山美智子 一木 猛彦 斎藤 惇生 荒木 穂積 阪田 園子 松田 正義 戸次 公正 杉原智加子 今村とも子

#### 【2021年度分会費】

仙田 和子 口分田政夫 大藤 夏実 服部 由美 圭 大槻 敏明 宮本 英夫 加藤 木田 昌秀 角熊 欣也 川瀬 源信 川瀬とし江 奥村 文子 櫛田美香子 櫛田 和義 塚本 正弘 塚本 昌子 未雄 角田 隆子 厚 大橋 大橋 史子 玉田 田中 洋子 滋 須藤 正之 髙橋 珠玖紀代子 川尻 良治 堂本 睦子 村田 甫子 松尾 尚美 西川 勇 石田 昌幸 石田 敬子 山本 順子 柴田 圭一 竹原 智也 荒木 穂積 秋山 未伊 石田 正志 武内 池内みさ子 阪田 園子 洋一 郷原 礼子 公門城正臣 松永 南 安次 厚 峰島 小川 緑 安孫子邦夫 福川百合子 小西 靖子 金野 光章 兼岩 龍善 平田 棟治 清水 明彦 小林 冴子 瀬良田淑江 千草 篤磨 岸野ヒサエ 坂野 幸江 山﨑 裕通

## 【2022年度分会費】

 谷川
 睦弓
 大藤
 夏実
 荒木
 穂積
 阪田
 園子

 田村
 素子
 兼岩
 龍善
 平田
 棟治

### 【2023年度分会費】

谷川 睦弓 阪田 園子 田村 素子 川合 清 兼岩 龍善

## 【2024年度分会費】

谷川 睦弓 阪田 園子 田村 素子

【2025年度分会費】 阪田 園子

## 後援会寄付金納入者ご芳名

## ★ 2020年11月1日~2021年3月31日受付分

(敬称略、順不同)

竹内 鉄雄 小島美智子 寺田 義明 今堀 清 正之 須藤 角田 隆子 堂本 睦子 宗友 良憲 粟津 順子 西村 隆宏 字野 知代 松永 洋一 立野麻衣子 郷原 礼子 柳 惠子 竹林美友紀 謙二 千代 小林フジ子 福川百合子 平田 棟治 岸野ヒサエ 小畠 好子 岩井 敏子 山﨑 正策 大阪保育福祉専門学校 匿名希望の方

## 後援会会費・寄付金納入者累計

		区	分	当期受付分	累 計
		会」	員数	20 人	270 人
	2020年度分	П	数	20 口	309 □
			額	60,000 円	943,000 円
		会」	員数	59 人	84 人
슾	2021年度分	П	数	60 □	87 □
			額	180,000 円	262,000 円
	2022年度分		員数	7人	12 人
費			数	7 □	12 □
			額	23,000 円	38,000 円
	2023年度分		員数	9人	9 人
			数	9 □	9 □
	2025年度分	金	額	31,000 円	31,000 円
	区	分	当期受付分	累計	
後援会寄付金		会」	員数	26 人	57 人
	金	額	666,000 円	1,075,000 円	

編 新型コロナウイルスはまだまだ収まる兆しがみえません。日本でもようやくワクチン接種が軌道に乗りはじめましたが、人類のウイルスとの戦いは第二幕を迎えているようです。全世界が団結して、この難局をなんとか乗り越えたいものです。(T)

#### (ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、 金額を記入する際は、枠内にはっきり と記入してください。また、本票を汚 したり、折り曲げたりしないでくださ
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便 局の払込機能付きATMでもご利用いた だけます。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、 引換えに預り証を必ずお受け取りくだ さい。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となる ものですから大切に保管してください。

収入印紙 5万円以上 貼 付

印